

4 モニター調査採点所感（株式会社教育測定研究所）

モ二夕一調査採点所感

株式会社 教育測定研究所

平成 30 年(2018 年)11 月〇〇日

1. 総論

本文書は、国立大学法人北海道大学が開発した高校生を対象とする国語科のモニター調査について、採点所感をまとめたものである。

今回のモニター調査は、以下の構成で行われた。

冊子 1(評・小)

- ・第 1 問: 語彙
- ・第 2 問: 評論「あなたへ 往復書簡」
- ・第 3 問: 小説「キリコさんの失敗」

冊子 2(小・評)

- ・第 1 問: 語彙
- ・第 2 問: 小説「或日の大石内蔵助」
- ・第 3 問: 評論「聞くこととしての歴史」

冊子 3(評・評)

- ・第 1 問: 語彙
- ・第 2 問: 評論「あなたへ 往復書簡」
- ・第 3 問: 評論「聞くこととしての歴史」

冊子 4(小・小)

- ・第 1 問: 語彙
- ・第 2 問: 小説「或日の大石内蔵助」
- ・第 3 問: 小説「キリコさんの失敗」

このうち、第 1 問(語彙)はすべての冊子に共通するものであり、マークシート形式によって行われた。これ以外の問題については、人手による採点を実施した。また、「聞くこととしての歴史」と「キリコさんの失敗」に関しては東北大学の学部入試過去問をもとにしたものであり、「あなたへ 往復書簡」と「或日の大石内蔵助」は、今回の調査のために新規に作成されたものである。

1.1 今回の生徒の状況を踏まえた全般的な難易度

今回のモニター調査の問題は、受験した生徒のレベルからするとかなり難しかったようである。人手による採点を実施した 4 大問すべてについて、平均得点率(平均得点/配点)が 1 割台以下の小問が含まれていた。また、「キリコさんの失敗」を除き、記述式の小問の平均得点率がのきなみ 5 割未満であった。このようなことを踏まえると、今回の問題は、極めて高いレベルの生徒を見出すことはできるものの、そうでない生徒の能力の高低を差異化しにくいものとなっている。なぜそうなるかと言えば、能力が低い生徒も能力が中ぐらいの生徒も、等しく今回の問題に得点することができないため、低い生徒と中ぐらいの生徒の間に得点の差が出なくなるためである。

もし、いわゆる旧帝国大学なみの受験難易度の高い大学において、優秀な生徒のみを選抜するために使うのであったとしたら、今回のように難易度が高い問題であったとしても差し支えはないだろう。しかし、もし中ぐらいの生徒を見出す目的で用いたいのであれば、今回の問題は難易度が高すぎた可能性がある。

1.2 従来型と新傾向型の解答状況の比較

次に、東北大学の学部入試過去問をもとにした 2 大問(「聞くこととしての歴史」と「キリコさんの失敗」、以下「従来型」)

と、今回新規に作成された 2 大問(「あなたへ 往復書簡」と「或日の大石内蔵助」、以下「新傾向型」)の解答状況について比較を行う。

全般的に言えば、従来型の問題の方が新傾向型の問題に比べて、生徒はよく解けていた。実際、従来型の問題の方が平均得点率が高い傾向にある。

また、生徒の実際の解答例を見ると、従来型の問題について、生徒はどう書けば良いかという形式をある程度認識していた。そして、たとえ得点が得られなかったとしても、問題が要求することから大きく外れた記述はあまり見受けられなかった。これに対して、新傾向型の問題については、どのように書けば良いかわからなかったのか、問題が要求することにうまく向き合うことができず、明後日の方向の記述をしてしまう例がまま見られた。

1.2.1 評論2題(東北大過去問「聞くこととしての歴史」、北大作成「あなたへ 往復書簡」)の解答状況の比較

評論の 2 題はいずれも生徒にとっては太刀打ちするのが難しかったようである。そもそも扱われている内容が、生徒にとって身近でなかったためか、文章の主旨を捉えることができずにうまく解答できなくなった可能性がある。

ただし、どちらかといえば、「あなたへ 往復書簡」の方が主旨を捉えるのが難しかったようである。こうなった理由としては、この文章が 2 人の作者によって書かれたことが挙げられる。2 人に書かれていることにより、構造が理解しにくかった可能性がある。さらに「あなたへ 往復書簡」では、本文の内容を踏まえた上でさらに発展的なことを記すことが求められる問題(問 4 や問 1)があり、本文の内容を十分に踏まえることができないままに発展が求められるという点が生徒にとって困難であったと思われる。

以下、「聞くこととしての歴史」について生徒の解答状況を紹介する(なお、「あなたへ 往復書簡」については、2.1 節において詳述する)。

- 問 1 の 5 つの漢字の問題は、解けた生徒の多い順で言うと、(2) > (4) > (5) > (3) > (1) という傾向が見られた。(1)の「継起」が書けている生徒はほぼ皆無であった。また、(3)「溶鉱炉」が書けている生徒も少数派であった。この問いについては「要航路」など「〇〇路」という答えを書く生徒が多かった。(4)については「普段」とする誤りが散見された。(5)は「活氣的」「画企的」という誤答が多く見られた。
- 問 2 については、正答の条件の「実際の出来事」を「(観察)対象」とする誤りが多く見られた。
- 問 3 については、文脈を正確に理解したうえで、きちんと設問に解答できている解答は皆無であった。特に多かった誤答としては、設問が「現在の状況」を問うているにも関わらず、「一切の諸論争と諸紛争が静けさに立ち返る」や「過去の経緯をめぐる諸々の「歴史観」の形成に先立って、これらの歴史観がよって立つ脚下の場所が、そこに開かれる」などの「聞くこととしての歴史」がもたらすであろう内容を記述しているものである。
- 問 4 については、そもそも要求されている 2 つの要素を書くことが困難そうであった。「解釈以前の事実そのものと向き合う」という正答の条件については、そもそも本文における「史料／出来事／事実」と「歴史」とを混同している生徒が大多数であり、うまく得点に結びつかなかった。また、「新たな歴史の獲得」という正答の条件に言及している解答はほとんど存在しなかった。
- 問 5 については、自説に対する異論の提出と再反論というプロセスをうまく理解できていない解答が多かった。また、単純に「疑義」という言葉の意味・用法が理解できていない解答も多く存在した。

1.2.2 小説2題(東北大過去問「キリコさんの失敗」、北大作成「或日の大石内蔵助」)の解答状況の比較

小説の 2 題を比較すると、「或日の大石内蔵助」はほとんどの生徒が太刀打ちできなかったのに対し、「キリコさんの失敗」は比較的うまく解けていた。

いずれの問題についても、物語の中での比喩、登場人物の関係について十分に理解することができずに、正答でき

なかった傾向があるように見受けられた。例えば、「或日の大石内蔵助」では「影法師」が表面的に何を示していることはわかって物語でどのような働きをしているかは理解できていないように見受けられた解答が少なくなかった。また「キリコさんの失敗」でも同様にキリコさんの口紅の働きを理解できていないように見受けられた解答が少なくなかった。

このような傾向が両方の問題に共通しているにもかかわらず、「或日の大石内蔵助」が難しかった要因としては、(i) 言葉遣いが古いこと、(ii) 分量に対して登場人物が多く、かつ呼称も変化すること、(iii) 忠臣蔵の話が高校生にとって親近感があるものではなかったことが挙げられると考えられる。これに対して、「キリコさんの失敗」は、高校生にとっては親しみやすく、比較的対処しやすかったためであると思われる。

以下、「キリコさんの失敗」について生徒の解答状況を紹介する(なお、「或日の大石内蔵助」については、2.2 節において詳述する)。

- 問 1 はおおむね問題なく解けていた。誤答としては「万年筆を手にするので」のように「書く」という行為に触れられていないものがあった。
- 問 2 については、「意味のある文字(言葉)を書く(授ける)」のように、「わたしが『形ないものを言葉にする』という行為によって『世界に(形と)意味を与える』」という文意を理解していないであろう解答が散見された。
- 問 3 については、「(キリコさんだけが)私の作業を尊重してくれた」というように、「書き物」に言及できていない解答が散見された。
- 問 4 については、「私を文字の世界に連れ戻す」という正答の条件を完全に満たさずに、「万年筆を直してくれた／インクを入れ替えてくれた」のような具体的な行動にのみ言及するにとどまる生徒が大部分であった。また、誤答としては、「唇(口紅)が輝いて見えた」のように問題文の言い換えにすぎない解答、「キリコさんが得意げだった」のように私の印象に言及していない解答、「救世主／ヒーローのように思った」のように比喩を用いるのみで具体性に欠ける解答が散見された。
- 問 5 については、字数が 80 字と少ない上に求める要素が多いため、全ての要素を満たすことは非常に難しかったようである。

2. 各論

以下では、今回の調査のために新規に作成された問題(「あなたへ 往復書簡」と「或日の大石内蔵助」)それぞれについて、採点基準を提示した後に、生徒の解答を踏まえ、誤答の事例や設問・採点基準の問題点・改善提案を挙げる。

2.1 あなたへ 往復書簡

2.1.1 今回の採点でを使用した採点基準

「あなたへ 往復書簡」の配点は以下の通りである。

問 1	10 点
問 2	4 点
問 3	8 点
問 4(1)(2)	6 点
問 4(3)	12 点
合計	40 点

以上の問題のうち、記述式問題の採点でを使用した採点基準を以下に引用する。なお、問 2 は選択式問題であるため、この基準には含めていない。

問1 「話を盛る」姿勢と柳田の姿勢(計 10 点)

「話を盛る」姿勢と柳田の姿勢を対比して述べる必要がある。「話を盛る」姿勢に関して触れる際に、これを「若者」の姿勢と書いても良い。

正答の条件

a	「話を盛る」姿勢に関して、「事実を誇張して語る」「大きさに話す」など「話を盛る」の語意を説明している。	+3点
b	条件 a に関する記述で、「話を盛る」の語意として「嘘をつく」ということに触れていない。	▼1点
c	「話を盛る」姿勢に関して、「聞き手に対して」または「場の中で」という状況、あるいは「注目を集めるため」という目的のいずれかを指摘している。	+2点
d	柳田の姿勢に関して、「感じたことも含めて書く」という点について触れている。	+3点
e	条件 d を満たした上で、柳田の姿勢として、柳田自身の内心の欲求に忠実な点について触れている。	+2点
f	解答が指定字数を超えていない。	▼1点

※ 条件 b、f については、満たされていないときに減点する。

正答の条件a、b「話を盛る」の語意

「嘘をつく」という要素を含めてきた場合、1点減点になる。

- あえて話を誇張する

- 事実を大きさに表現する
- △ 事実を誇張することで嘘をつき(aは満たしているが、bを満たしていないために減点)
- △ 話を膨らませて、ほらをふく(aは満たしているが、bを満たしていないために減点。このように誇張と嘘をつくことが並列の関係であっても減点対象となる)
- × 話を盛り上げる

正答の条件c「話を盛る」の状況または目的

- 相手の反応を期待して
- 周りの反応を得るために
- 相手に強い印象を与えようとする
- 聴き手の興味を引く

正答の条件d「感じたことを含めて書く」

「感じたことを含めて書く」とは、聞いたことだけでなく感じたことも合わせて書くという意味である。よって、明示的にせよ暗示的にせよ、聞いたことに触れる必要がある。

- 感じたことを含めて書く〔「含めて」で、聞くことを暗示〕
- 感じたことも書く〔「も」で、聞くことを暗示〕
- 聞いたことに加えて、感じたことを書く
- × 感じたことを書く
- × 感じたことなどを書く
- × 感じたことだけを書く

正答の条件e 柳田自身の内心の欲求に忠実であること

- 自身の感じたことに忠実
- 自身の感じたことをより正確に書くために
- × 偽りなく伝えるために〔内心の欲求というよりは客観的な何かを記してしまっている〕

問3「聞き書き」について共通する考え方(計8点)

正答の条件

a	権威主義的な事実が存在することを踏まえて、それを避けて書くことについて触れている。	最大+4点
b	聞くことと感じる事が密接に結びついていることを踏まえて、感じたことを含めて書くことについて触れている。	最大+4点
c	解答が指定字数を超えていない。	▼1点

- ※ 条件a、bは、聞き書きをする人の視点からの主体的な行動(書くこと)に触れられれば、4点。そこまで触れられずに単に一般的にそのような考え方が存在すると述べるのみならば、2点
- ※ 条件cについては、満たされていないときに減点する。

正答の条件a 権威主義的な事実が存在することを踏まえて、それを避けて書く

権威主義的な事実が存在することに触れられていれば2点を与える。さらに、権威主義的な事実を避けて書くという聞き書きをする人の視点からの主体的な行動まで踏み込むことができれば4点を与える。

- 権威主義的な事実から距離を取り
- 権威主義的な事実にこだわらず
- 権威主義的な事実から逃れる方法で
- 権威主義的な事実を書くことではなく
- △ (聞くことと感じる事が密接に結びついていることが) 権威主義的な事実の観点から軽視されている
- △ 事実性の観点から(感じるという側面を)軽視されている
- △ 権威主義的な事実から遠い
- △ 権威主義的な事実から離れている
[「距離を取り」と違って、聞き書きをする人の視点からの主体的な行動が見られない。ただし、「権威主義的な事実から離れている形で書く」というように主体的な行動まで踏み込めれば4点となる]
- × 権威主義的な事実だけが書かれているわけではない

正答の条件b 聞くことと感じる事が密接に結びついていることを踏まえて、感じたことを含めて書く

聞くことと感じる事が密接に結びついていることに触れられていれば2点を与える。さらに、このことを踏まえて、「感じたことを含めて書く」という聞き書きをする人の視点からの主体的な行動まで踏み込むことができれば4点を与える(この場合、「聞くことと感じる事が密接に結びついていること」を明示的に記す必要はない。単に「感じたことを含めて書く」と書いているだけで4点を与える)。

- 感じたことを軽視せずに書き進める
- 聞いて感じたことも書く
- 感じたことが反映される
[「文章に感じたことが反映されるように書く」と解釈する]
- 聞くことと感じることを密接に結びつけて書く
- 聞くことと感じることを分かつたらずに書く
- △ 聞くことと感じる事が密接に結びついている
- △ 聞くことと感じることは分かつたことができない
- × 聞きたいことを聞き、感じたいことを感じる
[聞くことと感じる事の結びつきも、感じたことを含めて書くということも言えていない]

なお、「感じたことを含めて書く」と記す場合の判断基準は基本的に問1の正答の条件dと同じであるが、「感じたことを書く」も許容される点異なる。

- 感じたことを含めて書く
- 感じたことも書く
- 感じたことを書く
- × 感じたことだけを書く

問 4(1)(2) 詳しく調べて見たいこと・書籍名(計 6 点)

この2小間は合わせて1問とみなして採点し、問 4(1)の上に点数を記入するようにする。なお、(1)と(2)のそれぞれで誤字があったとしても、減点は1点にとどめる。

正答の条件

a	(1)において、本文にある記述からテーマを設定している部分がある。	+2点
b	(1)において、本文にある記述を発展させたものからテーマを設定している部分がある。	+4点
c	(1)の解答が指定字数を超えていない。	▼1点
d	(2)において、本文中にある書籍を一冊だけ挙げている。	▼2点

※ 条件 c、d については、満たされていないときに減点する。

正答の条件d 書籍を一冊だけ挙げている

以下の場合、この正答の条件を満たさないので、2点の減点となる。

- [1] (2) が無答である。
- [2] (2) で本文に出てこない書籍を挙げている。
- [3] (2) で書籍を二冊以上挙げている。

問 4(3) どのようなことが分かるか(計 12 点)

正答の条件

a	何について考えるのか(～について)が書かれている。	最大+4点
b	具体的な考察の方法、手立て、課題発見のためのものの方、考え方(～することで)が書かれている。	最大+4点
c	予想される結論(～ことがわかる)が書かれている。	最大+4点
d	解答が指定字数を超えていない。	▼1点

※ 条件 d については、満たされていないときに減点する。

条件 a、b、c はそれぞれ、本文の記述の検証にとどまっている場合は+2点とし、本文から広がって発展の見られる場合は+4点とする。

2.1.2 生徒の解答で見られた誤答の事例

以下、小問ごとに、しばしば見られた誤答について紹介する。

問 1 については、以下のような誤答が見受けられた。

- 話を盛る姿勢について、単に「話を盛り上げる」といった形で、字面をただで答えたような解答が見られた。
- 話を盛る姿勢と柳田の執筆を対照する際に、「理解のしやすさ」や「事実性」の点から対比する解答もまま見られた。例えば、「話を盛る姿勢」について相手にとって「わかりやすく」、「理解しやすく」する姿勢であると述べるものが多数あった。

- 条件 d を満たしている生徒は非常に少なかった。
- また、柳田の姿勢が柳田自身の内心の欲求に忠実な点について触れていて、条件 e を満たしているように見えるものの、条件 d (柳田が何を書いたか) に触れていないために得点にならない解答もまま見られた。例えば、「柳田の執筆に対する姿勢は、自分が見聞きしどう感じたかに関心がある」といった内容の解答があった。

問 2 については、200 人分の解答をランダムに抽出し、その選択肢の選択状況を調べた。結果は以下の通りである。

選択肢番号	選択人数	選択比率
1	9	4.5%
2	24	12.0%
3	12	6.0%
4	9	4.5%
5(正答)	144	72.0%
無答	2	1.0%

誤答としては肢 2 を選んでいるものがやや多いものの、他の肢を選んでいる生徒もそこそこいるという結果となった。

問 3 については、以下のような誤答が見受けられた。

- 聞き書きについて書くことが求められている問題でありながら、民俗学の特徴を書こうとしている答案がまま見られた。
- 条件 b を満たしている生徒に比べて、条件 a を満たしている生徒は少なかった。

問 4(1)(2)については、以下のような誤答が見受けられた。

- そもそも本文の主旨を理解していないために、本文に即した課題を設定することができなかった生徒が非常に多かった。例えば、「(1) 原発とその被害者から分かる当時の過酷さと残った課題について (2) 闇に消される原発被曝者」のように本文の主旨とは関係なしに、書籍のタイトルから想像して課題を設定するものが挙げられる。
- このことと関連して、原発問題をテーマに設定する解答が非常に多数見受けられた。本文の「聞き書き」の内容が難しいために、原発問題の方が「調べてみたい」テーマとして選びやすかったのかもしれない。

問 4(3)については、以下のような誤答が見受けられた。

- 設問の趣旨を理解できていない解答が多く見られた。調べた結果の予想ではなく、生徒による論評や本文の要約などをそのまま書いており、自身が何を聞かれているかも分かっていない、分かっても何を答えていいかが分からなかった生徒も多いのではと思われた。
- 問1で挙げられていたせいか「話を盛る」姿勢について書こうとする解答も見受けられた。(この場合は、書き方にもよるが、本文の内容には含まれていないゆえに得点が得られないことになる。)

2.1.3 生徒の解答を踏まえた設問・採点基準の問題点と改善提案

本問題を採点した印象からすると、全体的に採点基準が厳しいように思われた。採点作業の観点からは、判断の難しい基準が多く、人によってブレが大きくなりそうな印象があった。今回は規模も小さく、意思を統一して実施することが可能であったが、これが大規模採点になり多人数が採点をするとうつな採点をするのは相当な困難をともなうおそれがある。

また、本問題は、往復書簡であるがゆえに多様な話題が盛り込まれ、様々な書籍名、人物名、学術用語等が解説なしに出てくる。そのため、読解力や語彙力といった国語力以前に、それら関連の知識を有するか否かが、ある程度有利不利に働いてしまいそうな題材でもある。このため、もし教養として国語に関連する知識として知っているかを問う意図であれば、問題として出す意義はある。しかし、もし狭い意味での読解力を測ることを目的とするのであれば、注釈を適宜載せることを考えた方が良いと思われる。

問 4 に関しては、本文に出てくるすべての書籍が選べるようになっているが、問題を修正するのであれば、『日本残酷物語』のように大した情報が本文に出てこないものは選ばせないようにした方が良いと思われる。現状の採点基準では本文の内容を踏まえて書く必要があるが、『日本残酷物語』などは本文との関連が薄く、これを選んでしまうと得点を得ることが難しくなってしまうためである。

また、(3)の正答の条件 a が、(1)で求める内容と重複している。このため、現状では(1)と重複することを恐れて、(3)において何について考えるかを書かなくなるおそれがある。また、(3)の条件 a と c も重複しがちである。条件 c は予想される結論(～ことがわかる)であり、「どの程度わかるか」は問われておらず、また未来の予想ゆえに抽象的なものになることが予期される(そもそも分かる具体的内容を書けるなら事前に分かっていることであり調べる意味がない)。結果として条件 a の分かること＝テーマ(何について考えるか)と重なる部分が大きくなってしまふ。このため、条件 a の存否については検討を要するかもしれない。

2.2 或日の大石内蔵助

2.2.1 今回の採点で使用した採点基準

「或日の大石内蔵助」の配点は以下の通りである。

問 1	5 点
問 2	8 点
問 3(1)	3 点
問 3(2)	12 点
問 4	12 点
合計	40 点

以上の問題のうち、記述式問題の採点で使用した採点基準を以下に引用する。なお、問 1 は選択式問題であるため、この基準には含めていない。

問2「影法師」の意図(計8点)

正答の条件

a	内蔵助の心情に変化があることを指摘している。	+3点
b	条件 a を満たした上で、変化前の内蔵助の心情として、幸福感を指摘している。	+2点
c	条件 a を満たした上で、変化後の内蔵助の心情として、負の感情を指摘している。	+2点
d	条件 a を満たした上で、(心情の変化の)予兆であるという効果を指摘している。	+1点
e	解答が指定字数を超えていない。	▼1点

※ 条件 e については、満たされていないときに減点する。

正答の条件a「内蔵助の心情の変化」

心情の変化を示す方法としては、以下の3つのものが考えられる。

- [1] 心情が「変わる」ことを言う。
 - 内蔵助の感情が変化する
- [2] 幸福感に関する心情が「失われる」ことを言う(基本的に条件bも同時に満たされる)。
 - 内蔵助の満足感がなくなる
- [3] 負の感情が「生じる」ことを言う(基本的に条件cも同時に満たされる)。
 - 内蔵助の心の中に暗い気持ちが生まれる

正答の条件b「変化前の幸福感」

心情を具体的に記さずに、感情を示す比喩表現・風景描写を書いている場合でも、幸福感に関するものであれば、この条件を満たすものとする。

- 誇らかな満足の間
- 快い春の日の暖かさを味わう
- 曇らない心

正答の条件c「変化後の負の感情」

正答の条件bと同様に、心情を具体的に記さずに、感情を示す比喩表現・風景描写を書いている場合でも、負の感情に関するものであれば、この条件を満たすものとする。

- 不安感
- 内蔵助の心にかげを落とす
- 不吉さ
- よくないこと(が近づく)

正答の条件d「予兆」

物語で「影法師」が出てくる時点では、内蔵助の心情の変化はまだはじまっていない。つまり、「影法師」という表現は、あくまでもこの時点から先のところでの心情変化を予兆しているにすぎない。よって、予兆である旨を記すことが正答の条件になる。

「予兆」を表す表現としては、「予感させる」、「ほのめかす」、「暗示する」などが考えられる。ただし、これらの表現が使われていても本文の内容に合わないものについては、この条件を満たさないものとする。

- 内蔵助の心情変化を暗示する
- 内蔵助の心情が変わることを暗示する
- × 内蔵助の心情が変わったことを暗示する

[この書き方では、「影法師」の時点ですでに変化があったことになり、先のところでの心情変化を予兆することにならない。]

問 3(1) 「風馬牛」の意味(計 3 点)

以下の要領で点数を与える。

「無関係」またはその同義語のみを記している。	3点
「無関心」またはその同義語のみを記している。	2点
その他(「頑固」、「決意が固い」など)	0点

複数の意味を書いた場合の取り扱い

「無関係」と「無関心」の両方を描いている場合は2点とする。

「無関係」または「無関心」と書いてあっても、その他の意味も記している場合は、0点とする。

- 無関係、頑固 → 0点
- 無関心、決意が固い → 0点

- 無関係、無関心 → 2点
- 無関係、無関心、頑固 → 0点

問 3(2) 「風馬牛」の意味(計 12 点)

- (1) で誤答であった場合、(2) は0点とする。
- (1) で3点・2点であった場合、または無答であった場合は、以下の正答の条件に基づいて採点する。

正答の条件

a	本文(或日の大石内蔵助)について触れている。	+2点
b	条件 a を満たした上で、「風馬牛」が「無関係／無関心」という意味になることについて、本文に基づく具体例を引いている。	+4点 (+3点)
c	使用例(花火)について触れている。	+2点
d	条件 c を満たした上で、「風馬牛」が「無関係／無関心」という意味になることについて、使用例に基づく具体例を引いている。	+4点
e	文末が「……ため。」「……から。」のように理由を導く表現になっている。	▼1点
f	解答が指定字数を超えていない。	▼1点

※ 条件 b については、特定の場合は+3点にとどめる。

※ 条件 e、f については、満たされていないときに減点する。

正答の条件b「或日の大石内蔵助」での具体例

正答の条件bにおける本文(或日の大石内蔵助)での具体例とは、〈仇討の流行〉と〈内蔵助〉に関係がないことを指す。これが指摘できていれば、4点を加える。ただし、〈仇討の流行〉の部分で〈流行〉に踏み込むことができていなければ、3点を加えることとどめる。

- 仇討の流行が内蔵助の良心に関係がない
- 内蔵助は仇討の流行と関係がない
〔内蔵助の〈良心〉に触れる必要はない〕
- 内蔵助は仇討の流行に無関心である
〔関心がないことの指摘は、関係がないことの指摘と同じとみなす〕
- 自分たちのせいで仇討が流行しているのも特に気にしない
〔明確に「内蔵助」と言っていないが、「自分たち」という言葉で内蔵助に触れていることがわかる〕
- 江戸での仇討は内蔵助の興味の外にある
〔「流行」とは言っていないが、「江戸での」という言葉から、仇討の〈流行〉に触れられていることがわかる〕
- 内蔵助は仇討ちの行為全てに責任を持つ気でいたわけではない。
〔「関係がない」という言葉がなかったとしても、それと同じような意味づけであれば問題はない〕
- △ 仇討は内蔵助と関わりがない
〔〈流行〉に触れていない〕

- × 内蔵助の良心とは関係がない
〔〈仇討の流行〉に触れていない〕
- × 江戸の様子と内蔵助の良心とは関わりがない
- × 仇討の流行は内蔵助に影響を及ぼさなかった
〔必要な要素は含まれているが、文章の趣旨に合致しない誤読を思わせる答案である〕

正答の条件d「花火」での具体例

正答の条件dにおける使用例(花火)での具体例とは、〈母の説教〉と〈勝治の行動〉に関係がないことを指す。

- 母の説教がまったく勝治の行動を変えなかった
- 母の説教を勝治は無視している
- × 母と勝治は関係がない
〔さすがに別の意味になってしまっている〕
- × 母の説教に関わりない
〔勝治の行動に触れていない〕
- × チベットと満州は関係ない

問4 大石内蔵助の呼称(計12点)

正答の条件その1とその2の両方に当てはまりうる場合は、総得点が高くなる方を採用する。

正答の条件その1

a	内蔵助の呼称が、内蔵助と読者との距離感を反映していることを指摘している。	+6点
b	条件 a を満たした上で、本文において(藤左衛門の登場の時点までは)距離が近づいていることを指摘している。	+3点
c	条件 a を満たした上で、本文において(藤左衛門の登場の時点からは)距離が遠ざかっていることを指摘している。	+3点
d	文末が「効果」につながる表現になっている。	▼1点
e	解答が指定字数を超えていない。	▼1点

※ 条件 d、e については、満たされていないときに減点する。

正答の条件その2

a	内蔵助の呼称が、内蔵助の心情変化を反映していることを指摘している。	+6点
b	条件 a を満たした上で、変化前の心情を具体的に指摘している。	+3点
c	条件 a を満たした上で、変化後の心情を具体的に指摘している。	+3点
d	文末が「効果」につながる表現になっている。	▼1点
e	解答が指定字数を超えていない。	▼1点

※ 条件 d、e については、満たされていないときに減点する。

正答の条件その1の a 内蔵助と読者との距離感

この条件を満たすには、読者(読み手)との距離感であることを理解していることを示している必要がある。また、距離感を示す際には「距離」、「近さ」、「遠さ」という言葉を用いるだけでなく、「親近感を持っていく」、「内蔵助の様子に肉薄する」といった表現を用いても良い。

- 読者と主人公の距離を近くしたり、遠くしたりすることによって、主人公に気持ちをよりそいやすくして、感情移入がしやすくなるというような(効果)
- 大石の呼称を変えることで読者と大石との心理的距離を変え、それに伴って、読者に大石が感じている仇討ちの満足さの変化を想像させやすくする(効果)

内蔵助と作者(語り手)との距離感、あるいは内蔵助と他の登場人物間の距離感を言っている解答はこの条件を満たしていない。

- × 最初は語り手は、大石内蔵助を客観的にみていたが、その後、親密な関係になり、意見が一致していたが、だんだんと浅い関係になるという関係の変化を伝える(効果)
- × 大石内蔵助の場合に応じて呼び方を変えることにより、他の登場人物と大石内蔵助の関係性を読者に分かりやすく伝えることができ、本文に対する読者の理解が深まるという(効果)

正答の条件その1のb、c 距離の近づき・遠ざかり

これらの条件は、距離感の変化をその変化の方向性をともなって記述していれば満たされる。また、近づくことについては、単に近づいていると指摘するだけでなく、具体的に近づいている様子を記しても良い。遠ざかることについても同様。

正答の条件その2のa、b、c 内蔵助の心情変化

これらの条件は基本的に問2の正答の条件a、b、cと同じである。なお、問2と違って「予兆」の有無は問わない。

正答の条件d 文末表現

解答の最後に句点を付けていたとしても、その句点を外して「効果」につながるようであれば減点はしない。

また、解答の最後を「効果(。)」としている場合も減点はしない。

なお、書きかけであれば、この条件を満たさずに減点の対象になることがほとんどであると思われる(たまたま「効果」につながるような形で書きかけになった場合は減点の対象にはならない)。

2.2.2 生徒の解答で見られた誤答の事例

以下、小問ごとに、しばしば見られた誤答について紹介する。

問1については、200人分の解答をランダムに抽出し、その選択肢の選択状況を調べた。結果は以下の通りである。

選択肢番号	選択人数	選択比率
1(正答)	102	51.0%
2	13	6.5%
3	7	3.5%
4	73	36.5%
5	2	1.0%
無答	3	1.5%

誤答の生徒は、肢4を選んでいるものが非常に多く、他の肢を選んでいる生徒はあまりいない結果となった。

問2については、以下のような誤答が見受けられた。

- 大石の負の感情について、「後ろめたさ」と述べている例がまま見られた。例えば、「大石が復讐を終え満足して暮らしているうちに後ろめたさが残っていることを表すため」としている解答があった。
- また、物語における比喩的な意味を説明するのではなく、影法師について日の光が人に当たって影ができたという形で、物理的な説明をする解答もまま見られた。
- 忠臣蔵のストーリーをよく知らないためか、登場人物の関係について誤解しているように見受けられる解答もしばしばあった。例えば、藤左衛門が吉良の刺客であるといった誤解をしているようなものもあった。

問3については、以下のような誤答が見受けられた。

- (1) においては、「頑固である」、「信念を曲げない」といった解答がしばしば見られた。これはおそらく「或日の大石内蔵助」の本文をあまり顧慮することなく、「花火」での使用例に引きずられた解答であると思われる。また、「無関心。無関係。」や「無関係であること。聞く耳を持たないこと。」のように複数の意味を解答する生徒が多く見られた。
- (2) の説明にあたっては、「或日の大石内蔵助」と「花火」の中での用例の内容について触れずに、(i) 「風馬牛」という字面から想像して答えようとしているもの(「風馬牛の字から、風に吹かれても動じない馬と牛の様子を表している」など)、(ii) 用例の前後の語句に着目して文法的に説明しようとしているもの(「用例で使われている風馬牛の上の節は逆接を導くので風馬牛は上の節を否定する語になることがわかる。また本文中のその語の後にしかしという接続語があることからわかる」など)がまま見られた。

問4については、以下のような誤答が見受けられた。

- そもそも何を書けば良いのかわかっておらず、作問者の意図とは違ったタイプの答案を書く生徒が多数見られた。
- 典型的な誤答としては、それまでの会話の要約をしてくるものが挙げられる。

2.2.3 生徒の解答を踏まえた設問・採点基準の問題点と改善提案

本問題に関しても、「あなたへ 往復書簡」と同様に、全体的に判断の難しい基準が多く、人によってブレが大きくなりそうな印象があった。大規模な採点で多人数が関わる場合は、統一的な採点が相当困難になるおそれがある。

問 1 については、肢 2、3、5 があまり選ばれていない。これらの選択肢は生徒にとって誤答であることがあまりに明白である可能性があり、あえてそのように作ったのでなければ、もっと生徒が選びたくなるように改善する必要があると思われる。

問(2)は、完全正答するために本文冒頭の「内蔵助の満足」、本文終わりの「(心の満足への)妙な曇り」という流れを理解する必要がある。その上で 40 字という厳しい字数制限、「作者の意図を推測せよ」という問い方であることを考慮すると、記述一問目にしては難易度が高すぎるように感じる。そもそもの本文が高校生には読解しにくい文章であることを考えると、問の構成で生徒を導くような設計が必要ではないかと考えられる。

先に触れたように、問 3(1)においては、複数の意味を解答する生徒がいた。設問を「『風馬牛』の意味を一つ答えよ。」とすることで多少ではあるが改善が見こめるのではないかと考えられる。あるいは、解答欄のサイズを小さくすることでも効果が見込めるであろう。また、「花火」の例を挙げるにあたって、「勝治は風馬牛である」で終わっているために、結局勝治がどうなったのかが確実に判断しきれない面があると思われる。その後の「僕はなんでもチベットへ行くのだ」という部分まで引用した方が良いのではないかと考えられる。

問 3(2)については、設問が「なぜそのように考えたか」となっており、どう答えればよいか分かりにくいことがある。重複感はあるものの、「なぜそのように考えたか。本文と使用例での言葉の使われ方をふまえて八十字以内で説明せよ。」などとした方が生徒を求める解答に導けるのではないかとと思われる。また、本問には 12 点が割り振られているが、本文の文脈とは直接は関係のない問題であり、いささか配点が大きいのではないかと考えられる。

問 4 については、先に述べたようにそもそも何を書けば良いのか生徒が理解できていない傾向が見られる。設問文でより具体的に指示をした方が良いのではないかと考えられる。

5 H28 試験問題（国語）（数学）についてのアンケート

試験問題(国語)についてのアンケート

学校コード	クラス	出席番号	性別	文・理(予定も含む)
			男・女	文系・理系・その他

※答案と同じ4桁で記入

※あてはまるものに○を付ける

(1) 全体としての解答時間(80分)はどうでしたか。あてはまる番号にひとつだけ○を付けてください。

1 短い	2 やや短い	3 ちょうどよい	4 やや長い	5 長い
---------	-----------	-------------	-----------	---------

(2) 第1問～第4問のうち、全く同じ問題(類似の問題は含めません)を解いたことがありますか。
解いたことがあるものすべてに○を付けてください。

第1問 語彙問題	第2問 説明文問題	第3問 統計資料問題	第4問 小説問題
----------	-----------	------------	----------

(3) 第1問～第4問の難易度についてどう感じましたか。あてはまる番号にひとつだけ○を付けてください。
また、各大問を解くのにかかったおおよその時間を記入してください。なお、手をつけなかった場合は0分としてください。

大問	手をつけ なかった	易しい	やや 易しい	普通	やや 難しい	難しい	解くのに かかった時間
第1問 語彙	0	1	2	3	4	5	分
第2問 説明文	0	1	2	3	4	5	分
第3問 統計資料	0	1	2	3	4	5	分
第4問 小説	0	1	2	3	4	5	分

(4) 第2問～第4問で、解答を最後まで書けなかった問題(小問)はありましたか。

(1 はい 2 いいえ)



解答を最後まで書けなかった問題(小問)について、あてはまる理由にひとつだけ○を付けてください。

大問	小問	時間が なかった	わからな かった	解く気が なかった	気付か なかった	その他
第2問 説明文	問1	1	2	3	4	()
	問2	1	2	3	4	()
	問3	1	2	3	4	()
	問4	1	2	3	4	()
	問5	1	2	3	4	()
	問6	1	2	3	4	()
第3問 統計資料	問1	1	2	3	4	()
	問2	1	2	3	4	()
第4問 小説	問1	1	2	3	4	()
	問2	1	2	3	4	()
	問3	1	2	3	4	()
	問4	1	2	3	4	()
	問5	1	2	3	4	()

裏面につづきます

(5-1) 第1問（語彙問題）について、あなたはどのような印象を持ちましたか。

記入例を参考にして（以下同）、各行ごとにあてはまる番号にひとつだけ○を付けてください。

（記入例）「難しい-易しい」で「やや難しい問題」と感じたら、「-1」に○を付ける

	ひじょうに	やや	どちらともいえない	やや	ひじょうに	
難しい	-2	-1	0	+1	+2	易しい

	ひじょうに	やや	どちらともいえない	やや	ひじょうに	
つまらない	-2	-1	0	+1	+2	おもしろい
嫌いな	-2	-1	0	+1	+2	好きな
ふざけた	-2	-1	0	+1	+2	まじめな
古い	-2	-1	0	+1	+2	新しい
奇抜な	-2	-1	0	+1	+2	典型的な
意地悪な	-2	-1	0	+1	+2	素直な
むりそうな	-2	-1	0	+1	+2	できそうな
解きたくない	-2	-1	0	+1	+2	解きたい
下品な	-2	-1	0	+1	+2	上品な
役に立たない	-2	-1	0	+1	+2	役に立つ
実力がわからない	-2	-1	0	+1	+2	実力がわかる
無意味な	-2	-1	0	+1	+2	有意義な

(5-2) 第2問（説明文問題 題材：岩井克人「資本主義と『人間』」）について、あなたはどのような印象を持ちましたか。(5-1)と同様に、各行ごとにあてはまる番号にひとつだけ○を付けてください。

	ひじょうに	やや	どちらともいえない	やや	ひじょうに	
つまらない	-2	-1	0	+1	+2	おもしろい
嫌いな	-2	-1	0	+1	+2	好きな
ふざけた	-2	-1	0	+1	+2	まじめな
古い	-2	-1	0	+1	+2	新しい
奇抜な	-2	-1	0	+1	+2	典型的な
意地悪な	-2	-1	0	+1	+2	素直な
むりそうな	-2	-1	0	+1	+2	できそうな
解きたくない	-2	-1	0	+1	+2	解きたい
下品な	-2	-1	0	+1	+2	上品な
役に立たない	-2	-1	0	+1	+2	役に立つ
実力がわからない	-2	-1	0	+1	+2	実力がわかる
無意味な	-2	-1	0	+1	+2	有意義な

(5-3) 第3問 (統計資料問題 題材：警視庁事故統計資料を基に作成) について、あなたはどのような印象を持ちましたか。(5-1)と同様に、各行ごとにあてはまる番号にひとつだけ○を付けてください。

	ひじょうに	やや	どちらともいえない	やや	ひじょうに	
つまらない	-2	-1	0	+1	+2	おもしろい
嫌いな	-2	-1	0	+1	+2	好きな
ふざけた	-2	-1	0	+1	+2	まじめな
古い	-2	-1	0	+1	+2	新しい
奇抜な	-2	-1	0	+1	+2	典型的な
意地悪な	-2	-1	0	+1	+2	素直な
むりそうな	-2	-1	0	+1	+2	できそうな
解きたくない	-2	-1	0	+1	+2	解きたい
下品な	-2	-1	0	+1	+2	上品な
役に立たない	-2	-1	0	+1	+2	役に立つ
実力がわからない	-2	-1	0	+1	+2	実力がわかる
無意味な	-2	-1	0	+1	+2	有意義な

(5-4) 第4問 (小説問題 題材：小川洋子「キリコさんの失敗」) について、あなたはどのような印象を持ちましたか。(5-1)と同様に、各行ごとにあてはまる番号にひとつだけ○を付けてください。

	ひじょうに	やや	どちらともいえない	やや	ひじょうに	
つまらない	-2	-1	0	+1	+2	おもしろい
嫌いな	-2	-1	0	+1	+2	好きな
ふざけた	-2	-1	0	+1	+2	まじめな
古い	-2	-1	0	+1	+2	新しい
奇抜な	-2	-1	0	+1	+2	典型的な
意地悪な	-2	-1	0	+1	+2	素直な
むりそうな	-2	-1	0	+1	+2	できそうな
解きたくない	-2	-1	0	+1	+2	解きたい
下品な	-2	-1	0	+1	+2	上品な
役に立たない	-2	-1	0	+1	+2	役に立つ
実力がわからない	-2	-1	0	+1	+2	実力がわかる
無意味な	-2	-1	0	+1	+2	有意義な

裏面につづきます

(6) 第1問～第4問を解答する上で、次の資質・能力は必要だと思いますか。必要だと思う場合は、例のように○を付けてください。必要だと思わない場合は何も付けなくても構いません。

資質・能力 (例)	第1問 語彙	第2問 説明文	第3問 統計資料	第4問 小説
(例1) 情報を調べる力 第2問と第3問に必要だと思ったら、両方に○を付ける →		○	○	
(例2) 芸術を鑑賞する力 どれにも必要ないと思ったら、○は付けない →				
資質・能力	第1問 語彙	第2問 説明文	第3問 統計資料	第4問 小説
言葉の働きや役割に関する理解				
言葉の特徴や決まりに関する理解				
言葉の使い方に関する理解				
言語文化に関する理解				
一般常識や社会規範				
情報を様々な見方でよく調べ、まとめる力				
自分の文の構成や表現形式を振り返り評価する力				
言葉によって感じたり想像したりする力				
イメージを言葉にする力				
言葉を通じて伝える力				
考えを形成し深める力				
自分の感情をコントロールして学びに向かう態度				
歴史の中で創造され継承されてきた言語文化の担い手としての自覚				
粘り強く、柔軟に考え考察を深めていく態度				
多様な考えを生かし、問題解決する態度				
読解力				
要約力				
表現力				
コミュニケーション力				
統計的思考力				
論理的思考力				
図やグラフを描いたり読んだりする力				

(7) 出題された問題についての意見や感想があれば書いてください。

(8) このアンケートにかかった時間(分)を教えてください。 おおよそ()分

ご協力ありがとうございました

(5-1) ① (マークシート問題) について、あなたはどのような印象を持ちましたか。

記入例を参考にして (以下同)、各行ごとにあてはまる番号にひとつだけ○を付けてください。

(記入例) 「難しい-易しい」で「やや難しい問題」と感じたら、「-1」に○を付ける

	ひじょうに	やや	どちらともいえない	やや	ひじょうに	
難しい	-2	○-1	0	+1	+2	易しい

	ひじょうに	やや	どちらともいえない	やや	ひじょうに	
つまらない	-2	-1	0	+1	+2	おもしろい
嫌いな	-2	-1	0	+1	+2	好きな
ふざけた	-2	-1	0	+1	+2	まじめな
古い	-2	-1	0	+1	+2	新しい
奇抜な	-2	-1	0	+1	+2	典型的な
意地悪な	-2	-1	0	+1	+2	素直な
むりそうな	-2	-1	0	+1	+2	できそうな
解きたくない	-2	-1	0	+1	+2	解きたい
下品な	-2	-1	0	+1	+2	上品な
役に立たない	-2	-1	0	+1	+2	役に立つ
実力がわからない	-2	-1	0	+1	+2	実力がわかる
無意味な	-2	-1	0	+1	+2	有意義な

(5-2) ② (最小値問題) について、あなたはどのような印象を持ちましたか。

(5-1) と同様に、各行ごとにあてはまる番号にひとつだけ○を付けてください。

	ひじょうに	やや	どちらともいえない	やや	ひじょうに	
つまらない	-2	-1	0	+1	+2	おもしろい
嫌いな	-2	-1	0	+1	+2	好きな
ふざけた	-2	-1	0	+1	+2	まじめな
古い	-2	-1	0	+1	+2	新しい
奇抜な	-2	-1	0	+1	+2	典型的な
意地悪な	-2	-1	0	+1	+2	素直な
むりそうな	-2	-1	0	+1	+2	できそうな
解きたくない	-2	-1	0	+1	+2	解きたい
下品な	-2	-1	0	+1	+2	上品な
役に立たない	-2	-1	0	+1	+2	役に立つ
実力がわからない	-2	-1	0	+1	+2	実力がわかる
無意味な	-2	-1	0	+1	+2	有意義な

(5-3) ③ (スーパームーン問題) について、あなたはどのような印象を持ちましたか。

(5-1) と同様に、各行ごとにあてはまる番号にひとつだけ○を付けてください。

	ひじょうに	やや	どちらともいえない	やや	ひじょうに	
つまらない	-2	-1	0	+1	+2	おもしろい
嫌いな	-2	-1	0	+1	+2	好きな
ふざけた	-2	-1	0	+1	+2	まじめな
古い	-2	-1	0	+1	+2	新しい
奇抜な	-2	-1	0	+1	+2	典型的な
意地悪な	-2	-1	0	+1	+2	素直な
むりそうな	-2	-1	0	+1	+2	できそうな
解きたくない	-2	-1	0	+1	+2	解きたい
下品な	-2	-1	0	+1	+2	上品な
役に立たない	-2	-1	0	+1	+2	役に立つ
実力がわからない	-2	-1	0	+1	+2	実力がわかる
無意味な	-2	-1	0	+1	+2	有意義な

裏面につづきます

(6) ①～③を解答する上で、次の資質・能力は必要だと思いますか。必要だと思う場合は、例のように○を付けてください。必要だと思わない場合は何も付けなくてください。

資質・能力 (例)	① マークシート	② 最小値	③ スーパーマン
(例1) 情報を調べる力	○	○	
(例2) 芸術を鑑賞する力			
資質・能力	① マークシート	② 最小値	③ スーパーマン
数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解			
言葉の働きや役割に関する理解			
言葉の特徴や決まりに関する理解			
言葉の使い方に関する理解			
言語文化に関する理解			
一般常識や社会規範			
情報を様々な見方でよく調べ、まとめる力			
自分の文の構成や表現形式を振り返り評価する力			
言葉や数式によって感じたり想像したりする力			
イメージを言葉や数式にする力			
言葉や数式を通じて伝える力			
考えを形成し深める力			
自分の感情をコントロールして学びに向かう態度			
歴史の中で創造され継承されてきた言語文化の担い手としての自覚			
粘り強く、柔軟に考え考察を深めていく態度			
多様な考えを生かし、問題解決する態度			
読解力			
要約力			
表現力			
コミュニケーション力			
統計的思考力			
論理的思考力			
図やグラフを描いたり読んだりする力			

(7) 出題された問題についての意見や感想があれば書いてください。

(8) このアンケートにかかった時間(分)を教えてください。 おおよそ()分

ご協力ありがとうございました

6 H28 国語・数学モニター調査問題冊子

国 語

注 意 事 項

- 1 監督者の指示があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 この問題冊子は27ページあります。問題は第1問から第4問までの4題あります。問題冊子の白紙のページや問題の余白は適宜利用してかまいません。落丁、乱丁または印刷不鮮明の箇所があったら手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答は、必ず黒鉛筆（シャープペンシルも可）で記入し、ボールペン・万年筆などを使用してはいけません。
- 4 1枚の解答用紙がこの冊子には含まれています。監督者の指示に従って試験開始の前に解答用紙の表と裏の指定欄に、クラス、出席番号を記入しなさい。

記入例

3組5番→0305 D組31番→0431

- 5 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
第1問、第2問は、黒鉛筆（H, F, HB）で解答欄にマークしなさい。例えば、

10

と表示のある問に対して③と解答する場合は、次の（例）のように解答番号10の解答欄の③にマークしなさい。

（例）

解答番号	解 答 欄
1 0	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

第3問、第4問は、解答欄に縦書きで記入しなさい。

- 6 第1問から第4問まで、各問題を解くのにかったおおよその時間を問題用紙の所定の欄に記録しておくこと。
- 7 解答用紙の解答欄に、関係のない文字、記号、符号などを記入してはいけません。また、解答用紙の欄外の余白には、何も書いてはいけません。
- 8 解答用紙は、持ち帰ってはいけません。試験終了後、問題冊子は持ち帰らなさい。ただし、問題を他人に知らせたり、公開してはいけません。インターネットでの公開、SNSへの投稿等は厳禁です。

—このページは白紙—

—このページは白紙—

第1問

次のことばに一番意味の似ているものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。なお傍線が引いてある場合はその部分について答えよ。解答番号は①～②0。

未曾有

1

- ⑤ 空前 ④ 秘密 ③ 不足 ② 驚異 ① 未熟

一時しのぎ

2

- ⑤ その場だけの間に合わせ ④ がまんして辛抱すること ③ 苦しみから逃れること ② 出来心 ① 少しの間

伏線を張る

3

- ⑤ 仮定する ④ 前もってほのめかす ③ 警戒する ② 罫をしかける ① はつきりと区別する

外国間の確執

4

- ⑤ やりとり ④ 友好関係 ③ 平和交渉 ② 取引 ① もめごと

9 尊大そんたい

- ⑤ 尊敬そんけいに値あたする
 ④ 心こころが寛ひろい
 ③ 偉大いだい
 ② 膨大ぼうだい
 ① 横柄おうへい

匙さじを投なげる

7

- ⑤ 好すき嫌きらいをする
 ④ あきらめる
 ③ 非常識ひじょうしき
 ② 乱暴らんぼうな様よう子す
 ① ひどく怒おこる

5 二にの腕うで

5

- ⑤ 利き腕うでではない方ほうの手て
 ④ 予備よびの考かんえ
 ③ 肘ひじ
 ② 上腕じょうわん
 ① 補佐ほさをする人ひと

10 辛辣しんらつ

- ⑤ 何物なにもにも拘束こうそくされないこと
 ④ 非常ひじょうに塩辛しおからいこと
 ③ 立場たちばがなくなること
 ② 非常ひじょうに手てきびしいこと
 ① 泣なきたいほどつらいこと

いやおうなしに

8

- ⑤ 我慢がまんできないくらいひどく
 ④ 有無うむを言いわさず
 ③ 異存いぜんがない
 ② 嫌気いやけを起おこさないで
 ① 肯定否定こうていひていともはつきりしないで

造詣ぞうけいが深ふかい

6

- ⑤ 神社じんじやに参詣さんけいする
 ④ よく考かんえ抜ぬく
 ③ 深ふかく通つうじている
 ② 造形性ぞうけいせいに富とむ
 ① 創造力そうぞうりよくがある

11 毫ごうも

- ⑤ ④ ③ ② ①
- 質素しつそに 少すこしも 固かたく 強引こういんに 何度なんども

婉曲えんきよくに

13

- ⑤ ④ ③ ② ①
- 断続だんぞくてき的に 不正ふせい確かくに 遠回とまわりに 優雅ゆうがに 率直そつちよくに

気がおけない

15

- ⑤ ④ ③ ② ①
- 気持きもちちが悪い 気きが小さい 遠慮えんりよがいらぬ 気分きぶんが落ち着つつかない 気きを許ゆるせない

懐柔かいじゅうする

12

- ⑤ ④ ③ ② ①
- 抱だきしめる 手てなずける 優やさしくいたわる 気持きもちちを落ち着つつける 賄賂わいろをもらう

他愛たあいない

14

- ⑤ ④ ③ ② ①
- むつつりしていること なんといいこともない 孤独こどくなこと 他たにいないこと 一途いちずなこと

無常むじょう

16

- ⑤ ④ ③ ② ①
- 移うつり変わること 冷つめたいこと 動うごかないこと 非常識ひじょうしきなこと 残酷ざんこくなこと

嫡流 ちやくりゅう

17

- ⑤ 亜流 ありゅう
- ④ よどんだ流れ なが
- ③ 清らかな流れ きよ
- ② 正當な流れ せいとう
- ① 激しい流れ はげ

無償の行為 むじやうのこうゐ

19

- ⑤ 心が冷たい こころがひややめ
- ④ 欲が深い よくがふか
- ③ 責任を取らない せきにんと
- ② 利益を得ない りえき
- ① 利益をむさぼる りえき

妙案 みょうあん

18

- ⑤ 非常識な案 ひじょうしきなあん
- ④ 奇妙な考え きみょうなかんが
- ③ 古い考え ふるいかんが
- ② よい思いつき よいおも
- ① ささやかな提案 ささやかなていあん

虎の子 とらの子

20

- ⑤ 大切なもの たいせつなもの
- ④ どうしても欲しいもの どうしてもほ
- ③ 危険なもの きげんなもの
- ② ひ弱なもの ひよわなもの
- ① たくましいもの たくましいもの

問題を解くのにかった
おおよその時間

分

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。

^(注1)フロイトによれば、人間の自己愛は過去に三度ほど大きな痛手をこうむったことがあるという。一度目は、コペルニクスの地動説によって地球が天体宇宙の中心から追放されたときに、二度目は、ダーウインの進化論によって人類が動物世界の中心から追放されたときに、そして三度目は、フロイト自身の無意識の発見によって自己意識が人間の心的世界の中心から追放されたときに。

しかしながら実は、人間の自己愛には、すくなくとももうひとつ、フロイトが語らなかつた傷が秘められている。だが、それがどのような傷であるかを語るためには、ここでいささか回り道をして、まずは「^(注2)ヴェニス（注2）の商人」について語らなければならぬ。

ヴェニスの商人——それは、人類の歴史の中で「^(注3)ノアの洪水以前（注3）」から存在していた商業資本主義の体現者のことである。海をはるかへだてた中国やインドやペルシャまで航海をして絹やコシヨウや絨毯じゆうたんを安く買い、ヨーロッパに持ちかえって高く売りさばく。遠隔地とヨーロッパとのあいだに存在する価格の差異が、莫大ばくだいな利潤としてかれの手に残ることになる。すなわち、ヴェニスの商人が体現している商業資本主義とは、地理的に離れたふたつの国のあいだの価格の差異を媒介して利潤を生み出す方法である。そこでは、利潤は差異から生まれている。

だが、^A経済学という学問は、まさに、このヴェニスの商人を抹殺することから出発した。

年々の労働こそ、いずれの国においても、年々の生活のために消費されるあらゆる必需品と有用な物資を本源的に供給する基金であり、この必需品と有用な物資は、つねに国民の労働の直接の生産物であるか、またはそれと交換に他の国から輸入したものである。

『国富論』の冒頭にあるこのアダム・スミスの言葉は、一国の富の増大のためには外国貿易からの利潤を貨幣のかたちで(ア)チクセキしなければならず、重商主義者に対する挑戦状にほかならない。スミスは、一国の富の眞の創造者を、遠隔地との価格の差異を媒介して利潤をかせぐ商業資本的活動にではなく、勃興ほつこうしつつある産業資本主義のもとで汗水たらして労働する人間に見いだしたのである。それは、経済学における「人間主義宣言」であり、これ以後、経済学は「人間」を中心として展開されることになった。

たとえば、(注4)リカードやマルクスは、スミスのこの人間主義宣言を、あらゆる商品の交換価値はその生産に必要な労働量によって規定されるという労働価値説として定式化した。

実際、リカードやマルクスの眼前で進行しつつあった産業革命は、工場制度による大量生産を可能にし、一人の労働者が生産しうる商品の価値（労働生産性）はその労働者がみずからの生活を維持していくのに必要な消費財の価値（実質賃率）を大きく上回るようになったのである。労働者が生産するこの剰余価値——それが、かれらが見いだした産業資本主義における利潤の源泉なのである。もちろん、この利潤は産業資本家によって搾取されてしまうものではあるが、リカードやマルクスはその源泉をあくまでも労働する主体としての人間にもとめていたのである。

だが、産業革命から二百五十年を経た今日、ポスト産業資本主義の名のもとに、旧来の産業資本主義の急速な変貌へんぼうが伝えられている。ポスト産業資本主義——それは、加工食品や繊維製品や機械製品や化学製品のような実体的な工業生産物にかわって **B** 技術、通信、文化、広告、教育、娯楽といったいわば情報そのものを商品化する新たな資本主義の形態であるという。そして、このポスト産業資本主義といわれる事態の喧騒けんそうのなかに、われわれは、ふたたびヴェニスの商人の影を見いだすのである。

なぜならば、商品としての情報の価値とは、まさに差異そのものが生み出す価値のことだからである。事実、すべての人間が共有している情報とは、その獲得のためにどれだけ労力がかかったとしても、商品としては無価値である。逆に、ある情報が商品として高価に売れるのは、それを利用するひとが他のひととは異なったことが出来るようになるからであ

り、それはその情報の開発のためにどれほど多くの労働が投入されたかには無関係なのである。

まさに、ここでも差異が価格を作り出し、したがって、差異が利潤を生み出す。それは、あのヴェニス商人の資本主義とまったく同じ原理にほかならない。すなわち、このポスト産業資本主義のなかでも、労働する主体としての人間は、商品の価値の創造者としても、一国の富の創造者としても、もはやその場所をもっていないのである。

いや、さらに言うならば、伝統的な経済学の独壇場であるべきあの産業資本主義社会のなかにおいても、われわれは、抹殺されていたはずのヴェニスの商人の巨大な亡霊を発見しうるのである。

産業資本主義——それも、実は、ひとつの遠隔地貿易によって成立している経済機構であったのである。ただし、産業資本主義にとつての遠隔地とは、海のかなたの異国ではなく、一国の内側にある農村のことなのである。

産業資本主義の時代、国内の農村にはいまだに共同体的な相互^(イ)フジヨの原理によって維持されている多数の人口がタイリユウ^(ウ)していた。そして、この農村における過剰人口の存在が、工場労働者の生産性の飛躍的な上昇にもかかわらず、彼らが受け取る実質賃金率の水準を低く抑えることになったのである。たとえ工場労働者の不足によってその実質賃金率が上昇しはじめても、農村からただちに人口が都市に流れだし、そこでの賃金率を引き下げってしまうのである。

それゆえ、都市の産業資本家は、都市にいながらにして、あたかも遠隔地交易に^(エ)ジユウジしている商業資本家のように、労働生産性と実質賃金率という二つの異なった価値体系の差異を媒介できることになる。もちろん、そのあいだの差異が、利潤として彼らの手元に残ることになる。これが産業資本主義の利潤創出の秘密であり、それはいかに異質に見えようとも、利潤は差異から生まれてくるというあのヴェニスの商人の資本主義とまったく同じ原理にもとづくものなのである。

この産業資本主義の利潤創出機構を支えてきた労働生産性と実質賃金率とのあいだの差異は、歴史的に長らく安定していた。農村が膨大な過剰人口を抱えていたからである。そして、この差異の歴史的な安定性が、その背後に「人間」という主体の存在を指定してしまう、^C 伝統的な経済学の「錯覚」を許してしまったのである。

かつてマルクスは、人間と人間との社会的な関係によってつくりだされる商品の価値が、商品そのものの価値として実体化されてしまう認識論的錯覚を、商品の物神化と名付けた。その意味で、差異性という抽象的な関係の背後にリカードやマルクス自身が措定してきた主体としての「人間」とは、まさに物神化、いや人神化の産物にほかならないのである。差異は差異にすぎない。産業革命から二百五十年、多くの先進資本主義国において、無尺蔵に見えた農村における過剰人口もとうとうコ ^(オ) カツしてしまった。実質賃金率が上昇しはじめ、もはや労働生産性と実質賃金率とのあいだの差異を媒介する産業資本主義の原理によつては、利潤を生みだすことが困難になってきたのである。あたえられた差異を媒介するのではなく、みずから媒介すべき差異を意識的に創りだしていかなければ、利潤が生み出せなくなつてきたのである。その結果が、差異そのものである情報を商品化していく、現在進行中のポスト産業資本主義という喧噪に満ちた事態にほかならない。

差異を媒介して利潤を生み出していたヴェニスの商人 ^X ——あのヴェニスの商人の資本主義こそ、まさに普遍的な資本主義であつたのである。そして、^D「人間」は、この資本主義の歴史のなかで、一度としてその中心にあつたことはなかつた。

(岩井克人「資本主義と『人間』」による)

- (注)
- 1 フロイト——オーストリアの精神医学者(一八五六—一九三九)。精神分析の創始者として知られる。
 - 2 「ヴェニスの商人」——シェークスピアの戯曲『ヴェニスの商人』をふまえている。
 - 3 ノアの洪水——ノアとその家族が方舟に乗り大洪水の難から逃れる、『旧約聖書』に記されたエピソード。
 - 4 リカード——アダム・スミスと並ぶイギリスの経済学者(一七七二—一八二三)。

問1 傍線部(ア)～(オ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号

は 21 ～ 25。

(ア) チクセキ

21

- ① ゾウチクしたばかりの家
- ② 原文からのチクゴヤク
- ③ ガンチクのある言葉
- ④ チクバの友との再会
- ⑤ 農耕とボクチクの歴史

(イ) フジョ

22

- ① 家族をフヨウする
- ② 遠方にフニンする
- ③ フセキを打つ
- ④ 免許証をコウフする
- ⑤ フソクの事態に備える

(ウ) タイリユウ

23

- ① 作業がトドコオる
- ② 義務をオコタる
- ③ 口座から振りカえる
- ④ 苦難にタえる
- ⑤ フクロの中に入れる

(エ) ジュウジ

24

- ① ジュウソク感を得る
- ② フクジュウを強いられる
- ③ アンジュウの地を探す
- ④ 列島をジュウダンする
- ⑤ ユウジュウフダンな態度

(オ) コカツ

25

- ① 経済にカツリヨクを与える
- ② 勝利をカツボウする
- ③ 大声でイツカツする
- ④ 説明をカツアイする
- ⑤ ホウカツ的な議論を行う

問2 傍線部A「経済学という学問は、まさに、このヴェニスの人を抹殺することから出発した」とあるが、それはど

ういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は26。

① 経済学という学問は、差異を用いて莫大な利潤を得る仕組みを暴き、そうした利潤追求の不当性を糾弾することから始まったということ。

② 経済学という学問は、差異を用いて利潤を生み出す産業資本主義の方法を排除し、重商主義に挑戦することから始まったということ。

③ 経済学という学問は、差異が利潤をもたらすという認識を退け、人間の労働を富の創出の中心に位置づけることから始まったということ。

④ 経済学という学問は、労働する個人が富を得ることを否定し、国家の富を増大させる行為を推進することから始まったということ。

⑤ 経済学という学問は、地域間の価格差を利用して利潤を得る行為を批判し、労働者の人権を擁護することから始まったということ。

問3 傍線部B「技術、通信、文化、広告、教育、娯楽といったいわば情報そのものを商品化する新たな資本主義の形態」とあるが、この場合、「情報そのもの」が「商品化」されるとはどういうことか。その具体的な説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 27。

- ① 多くの労力を必要とする工業生産物よりも、開発に多くの労力を前提としない特許や発明といった技術の方が、商品としての価値をもつようになること。
- ② 刻一刻と変動する株価などの情報を、誰もが同時に入手できるようになったことで、通信技術や通信機器が商品としての価値をもつようになること。
- ③ 広告媒体の多様化によって、工業生産物それ自体の創造性や卓越性を広告が正確にうつし出せるようになり、商品としての価値をもつようになること。
- ④ 個人向けに開発された教材や教育プログラムが、情報通信網の発達により一般向けとして広く普及したために、商品としての価値をもつようになること。
- ⑤ 多チャンネル化した有料テレビ放送が提供する多種多様な娯楽のように、各人の好みに応じて視聴される番組が、商品としての価値をもつようになること。

問4 傍線部C「伝統的な経済学の『錯覚』」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 28。

- ① 産業資本主義の時代に、農村から都市に流入した労働者が商品そのものの価値を決定づけたために、伝統的な経済学は、価値を定める主体を富の創造者として実体化してしまったということ。
- ② 産業資本主義の時代に、都市の資本家が農村から雇用される工場労働者を管理していたために、伝統的な経済学は、労働力を管理する主体を富の創造者と仮定してしまったということ。
- ③ 産業資本主義の時代に、大量生産を可能にする工場制度が労働者の生産性を上昇させたために、伝統的な経済学は、大きな剰余価値を生み出す主体を富の創造者と認定してしまったということ。
- ④ 産業資本主義の時代に、都市の資本家が利潤を創出する価値体系の差異を積極的に媒介していたために、伝統的な経済学は、その差異を媒介する主体を利潤の源泉と見なしてしまったということ。
- ⑤ 産業資本主義の時代に、農村の過剰な人口が労働者の生産性と実質賃金率の差異を安定的に支えていたために、伝統的な経済学は、労働する主体を利潤の源泉と認識してしまったということ。

問5 傍線部D「『人間』は、この資本主義の歴史のなかで、一度としてその中心にあったことはなかった」とあるが、それはどういうことか。本文全体の内容に照らして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 29。

① 商業資本主義の時代においては、商業資本主義の体現者としての「ヴェニスの商人」が、遠隔地相互の価格の差異を独占的に媒介することで利潤を生み出していたので、利潤創出に参加できなかった「人間」の自己愛には深い傷が刻印されることになった。

② アダム・スミスは『国富論』において、真の富の創造者を勤勉に労働する人間に見いだし、旧来からの交易システムを成立させていた「ヴェニスの商人」を市場から退場させることで、資本主義が傷つけた「人間」の自己愛を回復させようと試みた。

③ 産業資本主義の時代においては、労働する「人間」中心の経済が達成されたように見えたが、そこにも差異を媒介する働きをもった、利潤創出機構としての「ヴェニスの商人」は内在し続けたため、「人間」が主体として資本主義にかかわることはなかった。

④ マルクスはその経済学において、人間相互の関係によってつくりだされた価値が商品そのものの価値として実体化されることを物神化と名付けたが、主体としての「人間」もまた認識論的錯覚のなかで物神化され、資本主義社会における商品となってしまった。

⑤ ポスト産業資本主義の時代においては、希少化した「人間」がもはや利潤の源泉と見なされることはなく、価値や富の中心が情報に移行してしまったために、アダム・スミスの意図した「人間主義宣言」は完全に失効したことが明らかとなった。

問6 この文章の表現について、次の(i)・(ii)の各問いに答えよ。

(i) 波線部Xのダッシュ記号「――」のここでの効果を説明するものとして適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **30**。

- ① 直前の内容とひと続きであることを示し、語句のくり返しを円滑に導く効果がある。
- ② 表現の間^まを作って注意を喚起し、筆者の主張を強調する効果がある。
- ③ 直前の語句に注目させ、抽象的な概念についての確認を促す効果がある。
- ④ 直前の語句で立ち止まらせ、断定的な結論の提示を避ける効果がある。

(ii) この文章の構成の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **31**。

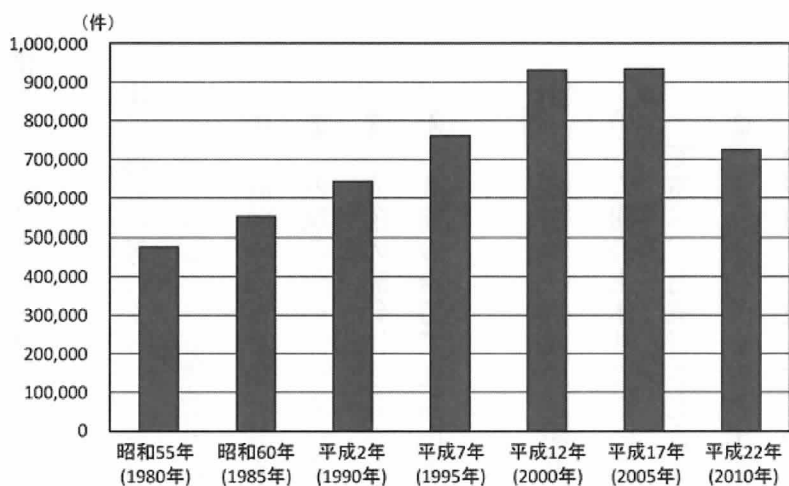
- ① 人間の主体性についての問題を提起することから始まり、経済学の視点から資本主義の歴史を起源にさかのぼって述べ、商業資本主義と産業資本主義を対比し相違点を明確にした後、今後の展開を予測している。
- ② 差異が利潤を生み出すことを本義とする資本主義において、人間が主体的立場になかったことを検証した後、その理由を歴史的背景から分析し、最後に人間の自己愛に関する結論を提示している。
- ③ 人間の自己愛に隠された傷があることを指摘した後で、差異が利潤を生み出すという基本的な資本主義の原理をふまえてその事例の特徴を検証し、最後に冒頭で提起した問題についての見解を述べている。
- ④ 差異が利潤を生み出すという結論から資本主義の構造と人間の関係を検証し、人間の労働を価値の源泉とする経済学の理論にもとづいて、具体的な事例をあげて産業資本主義の問題を演繹^{えんえき}的に論じている。

問題を解くのに
かかった
おおよその時間

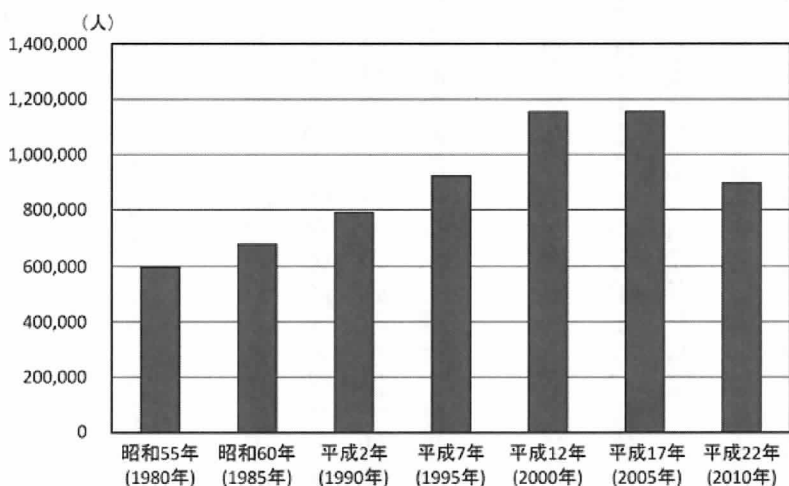
分

第3問 次の文章とグラフを読み、後の問い（問1～2）に答えよ。

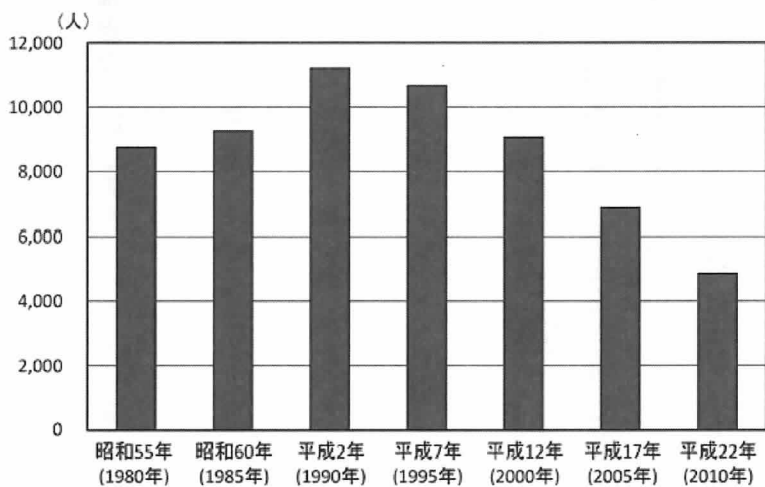
次に示すのは、警察庁事故統計資料に基づいて作成された交通事故の発生件数、負傷者数、死者数のグラフと、この三つのグラフを見て、交通事故の死者数が他よりも早く、平成二年（一九九〇年）以降減少傾向になっていることについて、四人の高校生が行った話し合いの一部である。



グラフ1：交通事故の発生件数



グラフ2：交通事故の負傷者数



グラフ3：交通事故の死者数

Aさん…交通事故の死者数が他よりも早く、平成二年（一九九〇年）以降減少傾向になっているのは、交通安全に関する国民の意識の変化が関係しているのではないかと思います。

その裏付けとなる資料として、「交通違反で検挙された人数の推移が分かる資料」があると思います。その資料を見れば、飲酒運転やスピード違反など、死亡事故につながるような重大な違反の割合が少なくなっていることが分かるはずです。

Bさん…私は、この三〇年間で販売されてきた自動車の台数と安全性に関係があると思います。(a) つまり、自動車の台数は年々増加し続けているので事故件数と負傷者数はなかなか減らなかったけれども、ア

ということですよ。

例えば、最近三〇年間における、「車の総販売台数の推移が分かる資料」と、「車の安全に関する装備の装備率の推移が分かる資料」があれば、このことを裏付けることができると思います。

Cさん…私は、交通事故の死者数が平成二年（一九九〇年）以降減少傾向になっているのは、医療の進歩が関わっていると思います。交通事故にあつて救急車で運ばれ一命を取り留めた人が、搬送先の病院で、「以前であれば助からなかった」と医師に言われたという話を聞いたことがあります。どういふことかというところ、昔は事故にあつて助からなかった命が助かるようになってきたので、事故の数は増えても亡くなる人は減り続けてきたのではないかと思います。

その裏付けとなる資料として、例えば、交通事故における救急車の出動回数の推移と救命率の推移が分かる資料が考えられます。その資料を見れば、

イ

のではないのでしょうか。

Dさん…私は、みなさんの意見を聞いて、次のように話し合いの内容を整理してみました。

Aさん、Bさん、Cさんは、三人とも、三つのグラフを比べて一つのグラフだけが異なる傾向を示している現象に着目し、その要因について仮説を立て、その根拠として考えられる資料を挙げて、その資料から推測される内容を述べられました。

これから、皆さんの仮説を検証するための検討や資料収集をしていきましょう。(以下、省略)

問1 Bさんは、下線部(a)「つまり」以下で、どのような内容を述べることになるか。空欄 に

当てはまる適切な内容を四十字以内で書け(句読点を含む)。

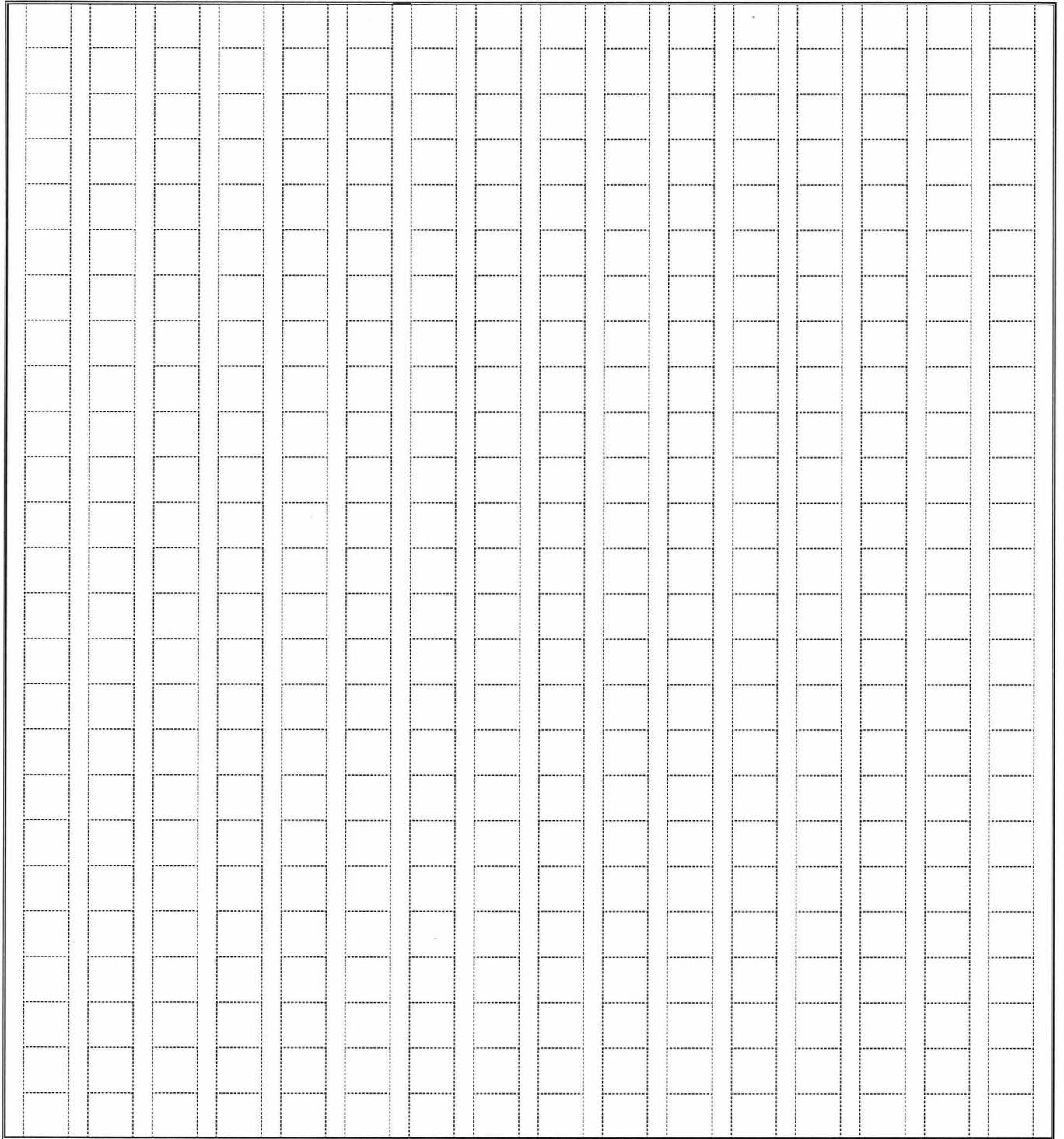
問2 空欄 でCさんはどのように発言したか。あなたが考える内容を、

八十字以上、百字以内で書け(句読点を含む)。

問題を解くのに
かかった
おおよその時間

分

解答は解答用紙の所定欄に縦書きで記入すること。次ページは下書き用原稿用紙である。



25 × 16

第4問

次の文章は、小川洋子「キリコさんの失敗」の一節である。キリコさんは「私」の家の「お手伝いさん」であり、その容姿が、「目鼻立ちのはっきりした、肉付きのいい人だった。アイシャドーは水色で、唇には当時流行のグロス入りの口紅が、はみ出すほどたっぷり塗られていた。なのに髪の毛には構わず、無造作に輪ゴムで縛ったり、あちこちヘアピンで留めたりしていた。」と描写される人物である。読んで問いに答えよ。

十一歳の夏休み、仕事で一カ月ヨーロッパを回っていた父親から、お土産に万年筆をもらった。銀色で細身の、スイス製の万年筆だった。

キャップを取ると、磨き込まれた流線型のペン先が現われ、それは見ているだけでも胸が高鳴るほどに美しく、持ち手の裏側にはその曲線によく似合う筆記体で、私のイニシャルYHが彫ってあった。

おもちゃ以外のお土産をもらうのは生まれて初めてだったし、まわりで万年筆を使っている子など一人もいなかったから、自分が一足飛びに大人になったような気がした。この万年筆さえ手にしていれば、何か特別な力を発揮できると信じた。

私はいつどんな時も、書きたくて書きたくてたまらなくなっていた。国語の漢字練習帳があるからと母に嘘をつき、お金をもらって大学ノートを買った。学校から帰るとランドセルを置き、真つすぐ机の前に向かってとにかく万年筆のキャップを外した。

いざとなつて、自分が何を書くつもりなのか、ちつとも考えていないことに気づいたが、私はひるまなかつた。(ア) そんなことは大した問題とは思えなかつた。インクがしみ出してくる瞬間や、紙とペン先がこすれ合う音や、罫線の間を埋めてゆく文字の連なりの方が、ずっと大事なのだった。

大人たちはすぐに、娘が何やら夢中になって書いていると気づいたが、必要以上に干渉はしなかつた。とにかく机の前で書き物をしているのだから、それは勉強、例えば漢字の書き取りのようなものに違いないと思ひ込んでほしい。

スリッパをはいて階段を登ってはいけなやか、お風呂に入った後は冷たいものを飲んではいけなやか、あの頃課せ

られていた多くの禁止事項の中に『書き物』が加えられなかった代わりに、大人たちは誰だれも書かれた内容については興味を示さなかった。どうせ自分たちの知っている漢字ばかりだから、という訳だ。

私はまず手始めに、自分の好きな本の一節を書き写してみた。『ファーブル昆虫記』のフンコロガシの章。『太陽の戦士』の出だしのところ。『アンデルセン童話集』から『ヒナギク』と『赤いくつ』。アン・シャーリーが朗読する詩。『恐竜図鑑』のプテラノドンの項。『世界のお菓子』、トライフルとマカロンの作り方。……

想像したよりずっとわくわくする作業だった。たとえ自分が考えた言葉ではないにしても、それらが私の指先を擦り抜けて目の前に現われた途端、いとおいしい気持ちに満たされた。

言葉たちはみんな私の味方だ。あやふやなもの、じれったいもの、臆病おくびょうなもの、何でもすべて形に変えてくれる。ブルーブラックのインクで縁取られた、言葉という形に。

そしてふと気がついて手を休めると、ノート一面びっしり文字で埋めつくされている。ついさっきまでただの白い紙だったページに、意味が与えられている。しかもそれを授けたのは自分自身なのだ。

私は疲労感と優越感の両方に浸りながらページを撫なで付けた。(イ)まるで世界の隠された法則を、手に入れたかのような気分だった。

『書き物』に対する態度が、他の大人と唯一違っていたのがキリコさんだった。干渉しない点については同じだが、彼女は明らかにこの作業を、勉強とは違う種類のものとして認めていた。敬意さえ払っていたと言ってもいい。

子供部屋やダイニングテーブルで作業に熱中している私を見つけると、一瞬キリコさんは立ち止まり、姿勢をただし、邪魔しないように注意を払いながら通り過ぎた。あるいはおやつを運んでくる時は、不用意にノートの中身に目をやって盗み見していると誤解されないよう、気を使っているのが分かった。自分の手元に視線を落とし、一切声は掛けず、ノートからできるだけ遠いところにジュースを置いた。コップに付いた水滴で、ページが濡ぬれてはいけないと思ったからだろう。

やがて私は他人の文章を書き写すだけでは満足できなくなり、作文とも日記ともお話ともつかないものを書き付けるようになった。クラスメイト全員の人物評と先生の悪口、一週間の食事メニュー、百万円あったら買いたい品物のリスト、

テレビ漫画の予想ストーリー、自分の生い立ち・みなしご編、無人島への架空の旅行記。とにかく、ありとあらゆるものだった。

今日は何にも書くことがないという日は、一日もなかった。キャップさえ外せば、万年筆はいつでも忠実に働いた。だから初めてインクが切れた時は、うろたえた。

「どうしよう、万年筆が壊れちゃった」

私は叫び声を上げた。

「もう壊しちゃったの？ せっかくのパパのお土産なのに。新しいのは買いませんからね。壊したあなたが悪いんです」
新しいのは買いませんからね——これが母の口癖であり、得意の台詞せりふだった。私は自分の不注意を呪い、絶望して泣いた。

「大丈夫。インクが切れただけなんだから、補充すれば元通りよ」

(ウ) 救ってくれたのは、やはりキリコさんだった。

「スイスのインクなのよ。パパがまたスイスへ行くまで待たなきゃならないの？」

「いいえ。街の文房具屋さんへ行けば、必ず売っています」

必ずという言葉を強調するように、キリコさんは大きくうなずいた。

キリコさんは正しかった。私は万年筆を壊してなどいなかった。約束どおり彼女は新しいインクを買ってきて、補充してくれた。ケースの裏に書いてある説明書は外国語だったから、二人とも読めなかったけれど、彼女は慎重に方向を見定め、崇高な儀式の仕上げをするように、万年筆の奥にインクを押し込めた。

「ほらね」

それがよみがえったのを確かめると、キリコさんは得意そうに唇をなめた。(エ) 一層唇が光って見えた。

「絶対ママには内緒にしておいてね」

誘ったのはキリコさんの方なのに、何度となく私は念を押した。

「平気よ」

本当にキリコさんは平気な顔をしていた。私たちは歯医者者の帰り、寄り道して一緒にチョコレートパフェを食べていた。高級なフランス料理であれ、屋台の焼きそばであれ、母は子供が家の外で食べ物をお口にするのは、衛生上好ましくないと信じていた。

「ここのはね、フルーツが新鮮で美味しいの」

彼女は大きな桃を飲み込んだ。

口の中にはまだ石膏と消毒液の匂いが残っていて、それがチョコレートと混じり合い奇妙な味がした。詰め物をしたばかりの奥歯は、ものを噛むたびカクカク音がした。

立派なパフェだった。フリル型に広がったガラス容器からあふれるほどに、ウエハースやバナナや生クリームが盛り付けてあった。キリコさんは長いスプーンを真ん中に突き刺し、せっかくのデコレーションが崩れるのも構わず、底のチョコレートをすくい上げて食べた。

「痛かった？」

彼女は尋ねた。

「そうでもない」

私は首を横に振った。

「よく歯医者になんか行く勇氣があるわね。まだほんの子供なのに」

「歯は大切なものよ。だって永久歯が抜けたら、二度と生えてこないんだもの。誰だって指を切断されたら悲しむでしょ？ もう元に戻らないからよ。歯だって一緒。一度抜けたらおしまい。なのにみんな、指ほどには大事にしないの」ふうん、とうなずきながら、キリコさんはスプーンの背でバナナをつぶした。

「でもやっぱりごめんね。口の中に手を突っ込まれて、べろの裏から喉の奥までのぞかれたうえに、ドリルで穴を開けられるのよ。考えただけでぞっとする」

口元からチョコレートの垂れそうになり、あわててキリコさんはナプキンで拭いた。せっかくの口紅がとれてしまうの

ではないかと、私は心配した。しかしそれはまだ艶やかさを失っていないかった。チョコレートよりもずっとべたべたして、甘そうだった。

「ねえ……」

私は前から気になっていた話題を、思い切って持ち出してみた。

「口紅を塗るって、どんな感じ？」

ああ、そんな簡単なこと、というふうには彼女はナプキンを丸めて転がし、バッグから口紅を取り出した。

「塗ってみれば分かるわ」

私はそれをくるくる回し、先を出したり引つ込めたりした。もうずいぶんすり減っていた。

「さあ、こうするの」

キリコさんは身を乗り出し、あつという間に私の唇を真っ赤にした。

「うん、なかなかよ」

私は喫茶店の窓ガラスに映った自分の顔を眺めた。キリコさんほど素敵ではなかった。歯の治療に失敗して、たちの悪いバイキンに感染したみたいで、口だけが腫れ上がって見えた。そのうえ、なめてみてもチョコレートのように甘くはなかった。さつき歯茎に打たれた、麻酔薬の味に似ていた。

「大変。ママに知れたらとんでもないことになる」

あわてて私はナプキンでこすった。なのにこすればこするほどはみ出して、余計目立ってしまった。

「もう取っちゃおうの。せっかく塗ったのに」

フツツと微笑んでキリコさんはナプキンにコップの水を垂らし、一緒にこすってくれた。セーターの襟ぐりから、温かそうな乳房がのぞいていた。

夜、治療したばかりの歯がうずいてなかなか眠れなかった。パフェのせいかもしれないと、私は不安でしかたなかった。そのうえ唇までがひりひりと痛みだした。

(※) 私はベッドからはい出し、キリコさんの秘密を全部、ノートに書いた。(小川洋子「キリコさんの失敗」による)

問1 傍線の箇所(ア)に「そんなことは大した問題とは思えなかった」とあるが、なぜ「私」はそう感じたのか。三十字以内で記せ。

問2 傍線の箇所(イ)に「まるで世界の隠された法則を、手に入れたかのような気分だった」とあるが、なぜ「私」はそのような気分になったのか。四十字以内で記せ。

問3 傍線の箇所(ウ)に「救ってくれたのは、やはりキリコさんだった」とあるが、「私」が「やはりキリコさんだった」と思った理由を、本文の内容に即して四十字以内で記せ。

問4 傍線の箇所(エ)に「一層唇が光って見えた」とあるが、なぜ「私」にはそのように「見えた」のか。その理由を本文の内容に即して五十字以内で記せ。

問5 傍線の箇所(オ)に「私はベッドからはい出し、キリコさんとの秘密を全部、ノートに書いた」とあるが、「私」はなぜそのようなことをしたのか。その理由を本文全体の内容をふまえて八十字以内で記せ。

問題を解くのに
かかった
おおよその時間

分

数 学

I 注 意 事 項

- 1 監督者の指示があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 この問題冊子は12ページあります。問題は①②③の3題あります。問題冊子の白紙のページや問題の余白は適宜利用してかまいません。落丁、乱丁または印刷不鮮明の箇所があったら手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答は、必ず黒鉛筆（シャープペンシルも可）で記入し、ボールペン・万年筆などを使用してはいけません。
- 4 2枚の解答用紙がこの冊子には含まれています。監督者の指示に従って試験開始の前に解答用紙①の表と裏、解答用紙②の表の指定欄に、クラス、出席番号を記入しなさい。

記入例

3組5番→0305 D組31番→0431

- 5 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
①は、裏表紙の解答上の注意を参考にして、黒鉛筆（H, F, HB）で解答欄にマークしなさい。
②③は答だけでなく途中の過程も記入しなさい。
- 6 ①②③の各問題を解くのにかけたおおよその時間を問題用紙の所定の欄に記録しておくこと。
- 7 解答用紙の解答欄に、関係のない文字、記号、符号などを記入してはいけません。また、解答用紙の欄外の余白には、何も書いてはいけません。
- 8 解答用紙は、持ち帰ってはいけません。試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。ただし、問題を他人に知らせたり、公開してはいけません。インターネットでの公開、SNSへの投稿等は厳禁です。

II ①の解答上の注意

解答上の注意は、裏表紙に記載してあります。この問題冊子を裏返して必ず読みなさい。

—このページは白紙—

—このページは白紙—

2

$0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ として、 x の関数 $f(x)$ を

$$f(x) = x^2 + \frac{2\cos\theta}{\sqrt{3}}x - 2\sin\theta$$

と定める。 x が整数を動くときの $f(x)$ の最小値を $m(\theta)$ とおく。

- (1) θ が $\cos\theta \geq \frac{\sqrt{3}}{2}$ を満たす場合に、 $m(\theta)$ が最小となる θ の値を求めよ。
- (2) $m(\theta)$ が最小となる θ の値と、そのときの最小値を求めよ。

— このページは白紙 —

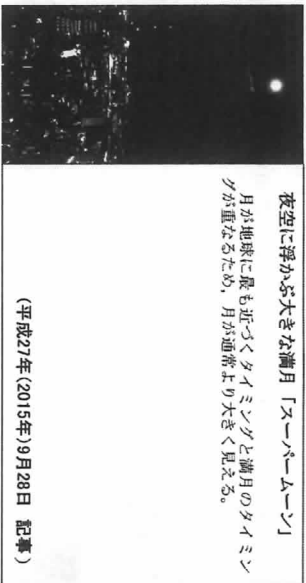
問題を解くのにかかった
おおよその時間

分

3

次の問いに答えよ。

伊藤さんは、「スーパームーン」に関する記事を読み、月が地球から最も離れたときに見える満月と比べて、記事にあるような「スーパームーン」はどのくらい大きく見えるのかを知りたくなり、月の見かけ上の大きさについて調べた。



〈伊藤さんの調べたこと〉

○月の見かけ上の大きさは、見えている月を円と考えて、その直径の両端と視点を結ぶ二等辺三角形の頂角である「視直径」で表す。

○「スーパームーン」の視直径はおよそ33分(ふん)、月が地球から最も離れたときの満月の視直径はおよそ29分である。
ただし、1分は 1° の $\frac{1}{60}$ である。

(1) 伊藤さんは、次の方法で満月を観測し、フィルムに円を描いて比べてみることにした。

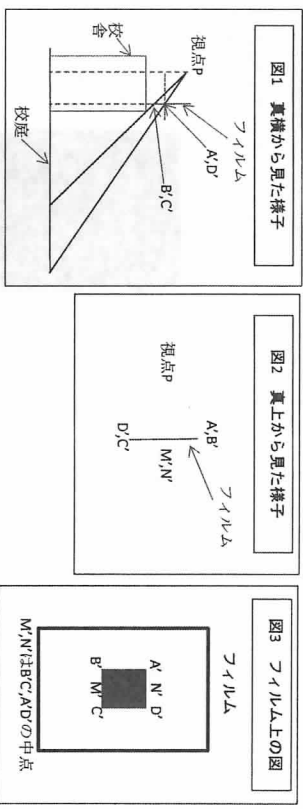
〈伊藤さんの方法〉

視点から月の中心に向かって500 mmの位置に、月の中心と視点を結ぶ直線に對して垂直になるように透明なフィルムを置く。そして、このフィルムを通して見える月をフィルムに写し取る。

伊藤さんの方法でフィルムに写し取られる、視直径 θ 分(ふん)の月の直径は何mmになるか。この直径を求める式を三角比を用いて答えなさい。
(3)は10ページに続く。

(1) の伊藤さんの方法は、校庭に文字や形を描くときにも応用できる。
 今、学校の屋上から校庭に描かれた四角形を見ている。下の図 1、図 2 のように、伊藤さんの視点 P に対し、校庭を一つの平面と考えた上で、この平面に垂直になるように透明なフィルムを置く。このフィルムを通して校庭を見ながら、校庭に描かれた四角形 ABCD を写し取ることとした。ただし、視点 P は、線分 BC' の中点 M' と、線分 AD' の中点 N' を含むフィルムに垂直な平面上にあるものとする。

(2) このとき、写し取られた四角形 A'B'C'D' (図 3) が正方形になる場合、校庭に描かれた図形は、 $AD > BC$ の等脚台形であるといえる。
 上の下線部の事柄が言えること理由を説明しなさい。



(3) 校庭に描かれた四角形 ABCD における 2 辺の AD と BC の比はどのような式で表されるか。校庭から視点 P までの高さを h, フィルム上の正方形 A'B'C'D' の辺の長さを d, 校庭から点 B' までの高さを g として, h, d, g を用いた式で示せ。

問題を解くのにかかった
 おおよその時間 分

II ①の解答上の注意

- 1 解答は、解答用紙の問題番号に対応した解答欄にマークしなさい。
- 2 問題の文中の ア , イウ などには、特に指示がないかぎり、符号 (−, ±) 又は数字 (0 ~ 9) が入ります。ア, イ, ウ, … の一つ一つは、これらのいずれか一つに対応します。それらを解答用紙のア, イ, ウ, … で示された解答欄にマークして答えなさい。

例 アイウ に −83 と答えたいとき

ア	<input checked="" type="radio"/> ⊕ 0 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
イ	⊖ ⊕ 0 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
ウ	⊖ ⊕ 0 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

なお、同一の問題文中に ア , イウ などが2度以上現れる場合、原則として、2度目以降は、 ア , イウ のように細字で表記します。

- 3 分数形で解答する場合、分数の符号は分子につけ、分母につけてはいけません。

例えば、 $\frac{\text{エオ}}{\text{カ}}$ に $-\frac{4}{5}$ と答えたいときは、 $\frac{-4}{5}$ として答えなさい。

また、それ以上約分できない形で答えなさい。

例えば、 $\frac{3}{4}$ と答えるところを、 $\frac{6}{8}$ のように答えてはいけません。

- 4 小数の形で解答する場合、指定された桁数の一つ下の桁を四捨五入して答えなさい。また、必要に応じて、指定された桁まで ⊖ にマークしなさい。

例えば、 キ . クケ に 2.5 と答えたいときは、2.50 として答えなさい。

- 5 根号を含む形で解答する場合、根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えなさい。

例えば、 コ $\sqrt{\text{サ}}$ に $4\sqrt{2}$ と答えるところを、 $2\sqrt{8}$ のように答えてはいけません。

- 6 根号を含む分数形で解答する場合、例えば $\frac{\text{シ} + \text{ス} \sqrt{\text{セ}}}{\text{ソ}}$ に $\frac{3+2\sqrt{2}}{2}$ と答えるところを、 $\frac{6+4\sqrt{2}}{4}$ や $\frac{6+2\sqrt{8}}{4}$ のように答えてはいけません。

